

2000年3月10日

主催(財)水野スポーツ振興会

共催(財)日本体育協会

(財)日本オリンピック委員会

“1999年度ミズノスポーツメントール賞”受賞者決定

(財)水野スポーツ振興会では、(財)日本体育協会、(財)日本オリンピック委員会と共催で、'90年度より「ミズノスポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

本日(3月10日)、高輪プリンスホテルで'99年度受賞者選考委員会を開き、受賞者を決定いたしました。受賞者は以下の通りです。

【ミズノスポーツメントール賞 ゴールド】(トロフィー、副賞200万円)

齊藤 仁氏(柔道)

【ミズノスポーツメントール賞 シルバー】(トロフィー、副賞各50万円)

阿部 周次氏(北海道)

高橋 雄介氏(水泳)

【ミズノスポーツメントール賞】(トロフィー、副賞各20万円、うちスポーツ券10万円)

井上 敦雄氏(東京都)

篠原 達夫氏(山梨県)

魚住 一郎氏(愛知県)

本郷 芳男氏(京都府)

馬場 國義氏(熊本県)

小浦 武志氏(テニス)

平田 倫敏氏(体操)

竹野 奉昭氏(ハンドボール)

吉田 安夫氏(卓球)

詳細は別記の通りです。

(お問合せ先)

(財)水野スポーツ振興会

ミズノ広報室

ミズノ大阪広報室

事務局

桂川・安達

小西・高橋

沢井・薬師寺

TEL. 03(3233)7009

TEL. 03(3233)7037

TEL. 06(6614)8373

名 称 : 1999年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に務めた指導者およびその周辺の指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の顕彰

選考委員 : 委員長 八木 祐四郎 氏(JOC会長)
委員 佐藤 宣 踐 氏(JOC理事、選手強化本部長)
" 田中 英 寿 氏(JOC理事、表彰専門委員会委員長)
" 長 沼 健 氏(日本体育協会副会長、日本サッカー協会名誉会長)
" 米 澤 一 氏(日本体育協会常務理事、
日本ヨット協会副会長)
" 小林 徳太郎 氏(日本体育協会常務理事、
日本水泳連盟副会長)
" 水野 正 人 氏(財団法人 水野スポーツ振興会会長
ミズノ社長)

※順不同

対 象 者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

受賞者及び : ^{さいとう} 齊藤 ^{ひとし} 仁 氏(国士館大学柔道部監督) 39歳

選考理由 昭和59年ロサンゼルス、昭和63年ソウル両オリンピック柔道男子95kg超級において金メダルを獲得、2連覇を達成した他、国内外の各大会において数々の優勝を飾るという競技実績に基づき後進を指導、平成2年からは全日本柔道連盟強化コーチとして国際試合に向けた重量級選手の強化・育成に携わっている。持ち前である根気強さと木目細やかな指導により1999年世界柔道選手権大会では、世界各国の台頭著しい重量級2階級(95kg超、無差別級)において篠原信一選手の優勝に大きく貢献している。競技実績に基づく論理的な指導力は高く評価されており、これから先も日本柔道界の中心的指導者としての活躍が期待されている。(東京都在住)

^{あべ} 阿部 ^{しゅうじ} 周次氏(社団法人 日本カーリング協会理事 他) 51歳

昭和55年北海道常呂町にカーリング協会を結成するとともに、特設リンクを作り、町民に対してカーリングの指導を行うなど地域スポーツとしてのカーリングの普及に尽力する一方、北海道カーリング協会、日本カーリング協会の結成に参画。両協会の理事に就任し、我が国のカーリングの普及発展に多大な貢献をした。現在では常呂町は「カーリングの町(町技)」として全国にその名を知られており、長野オリンピックでは常呂町から男女5名のオリンピック選手を輩出している。現在、氏は第2、第3のオリンピック選手を育てるべきジュニアの育成にも尽力されている。これまでカーリング競技の普及啓発を通じて地域スポーツの振興と地域の活性化の両面にわたる貢献をしてきた功績は誠に大きいものがある。(北海道在住)

^{たかはし} 高橋 ^{ゆうすけ} 雄介 氏(中央大学水泳部競泳コーチ) 37歳

大学卒業後、アメリカ・アラバマ州立大学にコーチ留学し、指導法、最新の科学的トレーニング法を学ぶ。帰国後は中央大学水泳部のコーチに就任、留学で学んだ指導方法に自ら考案したトレーニング法を加え選手の強化に携わっている。中央大学水泳部は日本学生水泳選手権大会男子競泳総合6連覇の達成、1999年短水路世界水泳選手権大会女子400mメドレーリレーにおいて世界新記録を樹立、優勝したメンバーへ3名(源純夏、中村真衣、田中雅美)を輩出するなど隆盛を極めているがこれも同氏の指導に負うところが大きいと判断されるところであり、若手指導者の第一人者として高い評価を受けている。(東京都在住)

いとうえ あつお
井上 敦雄 氏(財団法人 日本水泳連盟競技委員 他) 57歳

選手時代は400mメドレーリレーにおいて日本高校新記録を樹立。昭和40年4月日大豊山中・高校に教職として奉職、以来今日まで同校水泳部の顧問・監督を歴任、この間、インターハイ優勝6回、準優勝17回3位8回など、同校を東日本日本随一の水泳部に育て上げるとともに、東京、及び我が国ジュニア選手の育成に多大な貢献をした。また、昭和40年から63年までの24年間東京都国体水泳選手団少年男子の監督を務め、東京都の通算16回の総合優勝に貢献した。昭和44年日本水泳連盟競技委員に就任、これまで多くの国際競技会参加日本選手団のヘッドコーチを務め、我が国のトップスイマーの競技力向上と国際親善に貢献した。(東京都在住)

しのはら たつお
篠原 達夫 氏(山梨県ソフトテニス連盟副会長 他) 66歳

昭和32年第13回国体(富山)軟式庭球競技(現ソフトテニス)の教員の部ダブルスで優勝して以来、選手として指導者として後進の指導育成に尽力した。昭和52年に山梨県ソフトテニス連盟理事長に就任した後は同連盟の組織の整備・強化、ソフトテニスの普及と競技力向上に尽力する一方、自ら競技力向上に努め、指導者資格習得後は指導者養成の講師として指導育成にあたった。また、山梨県スポーツ指導者協議会甲府支部設立に尽力、支部設立と同時に副支部長に就任し、甲府市におけるスポーツ指導者の資質向上に努力している。(山梨県在住)

うおずみ いちろう
魚住 一郎 氏(財団法人 全日本弓道連盟評議員 他) 62歳

幼少の頃より父(現範士十段・愛知県弓道連盟名誉会長)の元で弓道の修行に励み、社会人となってからは一宮弓道会の会員のみならず愛知県下弓道愛好者の指導にあたる一方、地元一宮高校の弓道部の指導(非常勤教師)と愛知県下の大学弓道部を指導し、優秀な選手の育成に多大な貢献をした。自ら自己研鑽に努める傍ら、一宮弓道会並びに愛知県弓道連盟の役員として組織の整備・強化、弓道教室の開催、指導者講習会の開催等を積極的に推進し、弓道の普及と競技技術の向上に努めた。(愛知県在住)

ほんごう よしお
本郷 芳男 氏(京都市スポーツ少年団本部長 他) 67歳

早くから少年スポーツの振興に着目し、スポーツ少年団活動の先駆者的存在として、少年団の育成・発展に尽力され、少年野球のみならず他の競技の振興に寄与し、今日の少年団の基盤を築くとともに、後進の模範となっている。昭和63年の京都国体においては、マ스ゲームの指導に貢献されるとともに、スポーツ少年団の協力体制の確立に尽くし、スポーツ少年団の評価を高めた。温厚で誠実な人柄に加えて、熱意あふれる指導性は単にスポーツ少年団関係者のみならず広範な階層から敬愛なる念をもって憂げ止められている。(京都府在住)

ばば くによし
馬場 國義 氏(九州ボート連盟強化部長 他) 74歳

今日までの40年間近くにわたり一貫してボートの普及と競技力向上に努め、昭和39年には江津湖畔に自ら艇庫を作り高校ボートの指導活動に心血を注ぎ、数多くの優秀選手を育成した。特に、昭和37年熊本商科大学附属高校に赴任と同時に、同校に漕艇部(現ボート部)創部し、自ら部長に就任、指導活動にあたり、同校を高校総体漕艇競技会において優勝2回、準優勝3回の成績を残している。これまでの指導活動で全国規模の大会において入賞または優勝は10数回に及び、また世界ジュニア選手権大会等にも多くの選手を送り出し、その指導力はボート関係者はもとより我が国スポーツ界から高く評価されている。現在(74歳)でも毎日江津湖で自ら購入したモーターボートに乗船し、指導している現役指導者でもある。(熊本県在住)

こうら たけし
小浦 武志 氏(テニステクニカルアカデミー代表) 58歳

昭和38年ポルトアレグレ、昭和42年東京両ユニバーシアード男子ダブルス第2位入賞、昭和42年全日本室内選手権大会シングルス優勝はじめトップレベルの選手として活躍、その競技実績に基づき女子世界ランキングベスト10入りを果たした伊達公子選手、それを目標にトレーニングに励む浅越しのぶ選手等をジュニア時代から指導するとともに、ナショナルチームのスタッフとしても世界各国の大会に帯同し選手を指導する。日本女子ナショナルチームの選手の育成強化に大きく貢献している。(兵庫県在住)

ひらた のりとし
平田 倫敏 氏(日本体操協会体操競技委員会シドニー対策強化本部長) 42歳

高校、大学、社会人選手時代には、国内はもとより様々な国際大会で活躍、数多くの団体総合優勝に大きく貢献、個人総合においても常に上位入賞を果たす。昭和59年にはロサンゼルスオリンピックに出場、団体総合銅メダル獲得に貢献している。競技生活終了後は大和銀行体操クラブのコーチ、監督、総監督として後進の指導に携わり、全日本社会人大会、全日本選手権大会等の国内トップレベルの大会において同チームを団体総合優勝に導いている。競技実績に基づく指導力と情熱は日本の体操界の競技力を支えるものであり、長年にわたる献身的な指導の功績は誠に多大である。(埼玉県在住)

たけの ともあき
竹野 奉昭 氏((財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団,事務局長) 63歳

昭和 35 年大崎電気工業入社、ハンドボール部を創部、主将としてチームをまとめるとともに中心選手として活躍。同部の監督、副部長を 40 年に渡り務め、数々の国内大会においてチームを優勝に導く。また、全日本の監督としてナショナルチームを昭和 47 年のミュンヘン、昭和 51 年のモントリオール両オリンピックに導くなど、ナショナルチームの基盤を作り上げる。全日本実業団ハンドボール連盟理事を始め副理事長、理事長、日本ハンドボール協会常務理事などをも歴任、日本ハンドボール界の発展と技術力の向上に大きく貢献する。(埼玉県在住)

よしだ やすお
吉田 安夫 氏 (青森山田高等学校卓球部監督) 67 歳

大学卒業後、45 年間に渡り高校卓球部の指導に携わり、インターハイ、国体、全国高校選抜、全日本卓球選手権大会等の国内大会において団体、個人合わせ 80 回をも優勝に導いている。その間、昭和 60 年の世界選手権大会ではヘッドコーチとして参加男子団体 3 位入賞に貢献、平成 7 年の世界ユース卓球選手権大会では男子監督として指導に携わりチームを優勝に導くなど、日本卓球界の発展に大きく貢献している。(青森県在住)